

傾向と様々なケース

■行政主体地域（トップダウン含む）

- ・生産者とのコミュニケーションが薄い
- ・有機農業を広める意味を伝えられない
- ・国の施策を理解していない
- ・有機をやりたいけど、市民理解が得られない
- ・何をサポートしていいか手段がわからない
- ・有機給食を始めたいけど有機JASの取り扱いが難しい

傾向と様々なケース

■生産者等主体地域（行政も主体性があると相談）

生産者多数地域

- ・販路拡大か技術力、継承者問題の解決策を求めている
- ・消費者理解を深めたい

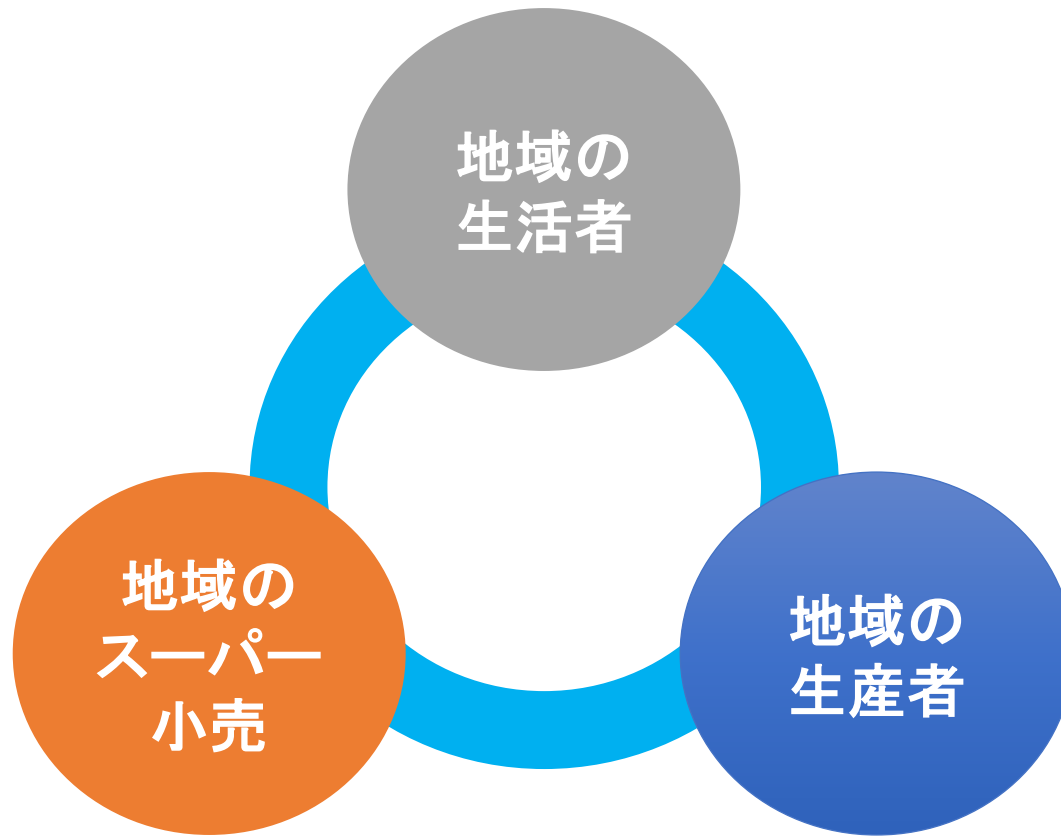
生産者少数地域

- ・主体生産者以外へのモチベーションをあげる
- ・行政が他の生産者の存在を認識していない
- ・学校給食を始めたいけど何からやっていいかわからない

地域での有機農業推進の課題

- 有機農業の価値の理解
- 農村コミュニティの崩壊（小規模の価値）
- 地域有機物の資材化（肥料の確保）
- 新規就農者を受け入れる環境整備
- 慣行栽培農家との連携
- 有機農業の栽培実証圃場が少ない
- 県と地域行政・農家のコミュニティ
- 有機農業を農家が学ぶ機会
- 教育と絡めた有機学校給食と有機JAS

まずは、楽しくできること 高知オーガニック



生産者は技術力を上げ、学び続けること 農業はサービス業。来年はもっとおいしいを。



■ 技術力を上げる

野菜と米の有機栽培検証圃場を設けて
随時勉強会を行ったり
外部講師を招き知識と経験値を積み重ねる

■ 経営力を上げる

販売は出来るだけ地元スーパー。
余りを県外にするモデルを構築したい。
一年を通してスーパーにオーガニック
コーナーを維持できる生産体制構築。

夕飯に並ぶ野菜は地産地消♪ 地球にやさしいをおしゃれに楽しむ。



■ 地球にやさしい、を楽しむ
川や山を守る農法で栽培された野菜♪
生分解性で地球にやさしい洗剤♪
自然由来の成分100%の化粧水♪
オーガニックのアロマオイル♪
余った野菜の皮でベジブロス♪

■ 夕飯に並ぶ料理は地産地消
遠くから運ばれてきた食材は、輸送する
ためにエネルギーをたくさん消費してい
たり、その間に腐ってしまわないように加
工されている場合が多いので、近くの食
材を選ぶことは自分の身体と自然環境
への負担を減らすことにも繋がります。

実需者も、サステイナブルな取り組みを目指すは四国CGC生協！？



■ 四国CGCのここがすごい

四国CGCの加盟店スーパーとしては有機農産物の安定供給課題、生産者として物流リスクと費用の課題をクリアする取組。

また、高知県での地域農業活性化、地産地消の取組強化による地域再生に寄与している。

■ 目指すは四国CGC生協！？

消費者、生産者、実需者のみんなで、地域の一次産業を再生を目指したい。四つの国が一つに手をつないだ生協ができればワクワクしませんか。

山、里、海をつなぐプロジェクトを目指したい。
夢は皿鉢料理をオール県内天然物に。



一次産業者従事者が生き生きとする元気な県へ。

すると。。。。

農家、地域スーパーが立ち上がり
後日、四国CGC社長と面談し
高知オーガニックを立ち上げる。



“高知オーガニック”とは、高知の人と環境にやさしい農業を目指している生産者と地域密着型スーパーを中心とした協議会で、持続可能な地域づくりや交流を目的としています。

毎日お買得

高知オーガニックの取り組み

- 農家は近くの加盟店スーパーに出荷する事で、最大約 60 店舗に並べることができる。



- 当初参加農家 7 → 13 に

- スーパーのコーナーだけでなく、地域内給食提供やCGCでの加工品の取り組みについても要望をいただいている。



2020年6月より、15店舗開始

加盟店一覧

■サンシャイン

全29店舗展開

■サンブラザ

全21店舗展開

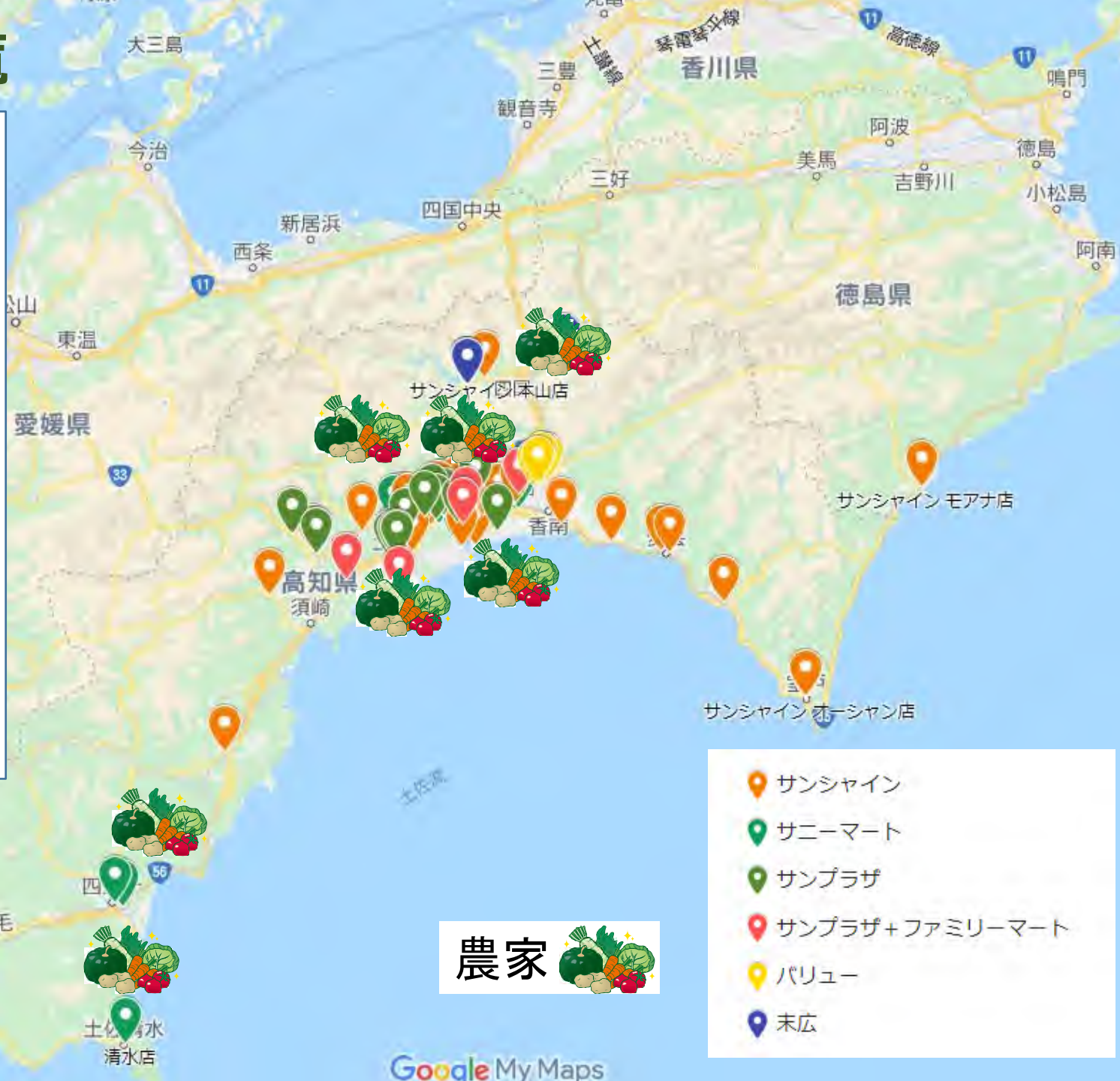
■バリュー

全4店舗展開

■末広

全3店舗展開

※2020年1月各社HP数値より



農家

○ サンシャイン

● サニーマート

● サンブラザ

● サンブラザ+ファミリーマート

● バリュー

● 末広


畑の中に小さな自然を再現する
山下農園とは

超自然農法
 自然を規範に環境を整え、自然を尊重しながら土を育てる。その上で健全で美しい作物を栽培する。

土造りからこだわり
 自然・野菜を愛し、人を育てる
 先代の理念を受け継ぎ

田舎からの国造り
 日本の農業を変える
 消費者の健康を守る
 美しい日本を取り戻す

りくるvege
 土づくりからこだわって、おいしくて、安心・安全な野菜作りに取り組んでいます！




Kochi Organic
 高知オーガニック



高知オーガニックとは、高知の人と環境にやさしい農業を目指している生産者と、スーパーを中心とした協賛会で、持続可能な地域づくりや交流を目的としています。

山下農園のこだわり野菜
 198円

レタスミックス
 198円

洋人参
 198円

ズッキーナ
 198円

洗ったまわき
 198円

りくるvege
 土づくりからこだわって、おいしくて、安心・安全な野菜作りに取り組んでいます！

山下 寛一

ここで作ってます

土佐市 山内町

生産者より一言

土づくりにこだわり、寒暖差の強い南北で育てられた野菜です。野菜が苦手な方こそ是非！

岩上 隼人

ここで作ってます

高知市 南国市

生産者より一言

「美味しい」はもちろんのこと、「カラダもココロもハッピー」になる野菜作りを目指しています。

刈谷 真幸

ここで作ってます

高知市 土佐市

生産者より一言

作り手と、お客様をつなぐきっかけはいつも安心、安全、そして笑顔で作りたい。そんな気持ちで育てた野菜は、是非一度食べてほしい野菜と思っています。

幸石 健太郎

ここで作ってます

高知市 土佐市

生産者より一言

じっくり丁寧に安心安全なお野菜を作っています。是非食べてみてください。

杉本 新也

ここで作ってます

高知市 土佐市

生産者より一言

野菜を少なめで精製を使い自然に優しい環境で作り育てています。

刈谷 真幸

ここで作ってます

高知市 土佐市

生産者より一言

有機100%。作り手と、お客様をつなぐきっかけはいつも安心、安全、そして笑顔で作りたい。そんな気持ちで育てた野菜は、是非一度食べてほしい野菜と思っています。

刈谷 真幸

ここで作ってます

高知市 土佐市

生産者より一言

土佐清水の海産物の好地産で野菜を育てています。

刈谷 真幸

ここで作ってます

高知市 土佐市

生産者より一言

食べると嬉しくなるような野菜を目指して育てています。

生産者より一言

高知市 土佐市

心身ともに健康な野菜作りを目指しています。

ズッキーニ

1本 198円+税

にんにく芋

1袋 198円+税

レタス

1玉 198円+税

水菜

1袋 198円+税

CGC

おすすめ品

新



高知オーガニック始動！

2019年5月に結成された高知オーガニック。当初は13人の生産者、販売店関係者等が集まりこれからの有機農業を拓いていくため、有機農業の勉強会を開催したり新規就農者に対しての栽培アドバイス等の取り組みが行われました。

高知オーガニックではこれからの高知県の有機農家を増やしていくためにまずは有機農産物を皆様に知っていただき、気軽に購入できる場所を考えたといふと、2020年5月より高知県下15店舗で高知オーガニックコーナーを設け、販売開始。有機農産物の拡大と新規の有機農家にも安心して就農できる環境づくりに取り組んでいます。是非、高知オーガニックのお野菜を宜しく願います。

販売先（高知県下スーパー紹介）

- ・サンブラザ
- ・土佐山田ショッピングセンター
- ・末広ショッピングセンター本店
- ・サンシャイン



高知オーガニック生産者紹介



土佐山田ショッピングセンター ノア店での販売風景

	屋号 山下農園
	代表者 山下 寛一
メッセージ 土づくりにこだわり、寒国産の強い道北で育てられた野菜です。野菜が苦手な方こそ是非！！	
生産地 土佐市・本山町	

	屋号 りぐるVege
	代表者 中西 亮介
メッセージ 心も身体も健やかに次世代の人の為に安心安全して食べれる野菜づくりを心がけてます！	
生産地 春野町	

	屋号 や農園
	代表者 川村 淳
メッセージ 土佐の日曜市でおなじみのや農園は季節の野菜を自然と共に作っています。	
生産地 春野町	

	屋号 ケンタロウファーム
	代表者 寺石 健太郎
メッセージ じっくり丁寧に安心安全なお野菜を作っています。是非食べてみてください。	
生産地 春野町	

	屋号 鈴の音農園
	代表者 鈴木 弘毅
メッセージ 鍋川源流流域の土佐山で農業、化学肥料を使わず野菜を作っています。	
生産地 土佐山	

	屋号 キセツノオヤサイ農園
	代表者 岩上 隼人
メッセージ 「美味しい」はもちろんのこと、「カラダもココロもハッピーになる野菜作り」を目指しています。	
生産地 南国市・香美市	

	屋号 佐竹農園
	代表者 佐竹 洋明
メッセージ 食べると嬉しくなるような元気な野菜を目指して育てています。	
生産地 南国市	

	屋号 はるひ畑
	代表者 杉本 和也
メッセージ 肥料も少なめで緑肥を使い自然に優しい農業に取り組んでいます。	
生産地 南国市・大豊町	

	屋号 素農人
	代表者 西森 啓二
メッセージ 緑肥の利用と植物性の肥料を使った野菜を栽培をしています。納得の出来る野菜をつくり提供します！	
生産地 佐川町	

	屋号 刈谷農園
	代表者 刈谷 真幸
メッセージ 作り手とお客をつなぐきっかけはいつも安心・安全。そして笑顔でありたい。そんな気持ちで育てた商品を、是非一度お手にとっていただくと嬉しいですよ。	
生産地 いの町	

	屋号 クモモファーム
	代表者 神原 大輔
メッセージ 土佐清水の海辺の砂地畑で野菜を育てています。	
生産地 土佐清水市	

	屋号 四万十オーガニック
	代表者 黒谷 恵生
メッセージ 農業・化学肥料を使わずお米や野菜を作っています。畑の中でいい微生物などがいると河川や海の生態系も豊かになっていきます。そうした農業を広げていくことが人々の目標です！	
生産地 四万十市	

	屋号 野菜屋けんちゃん
	代表者 長野 賢次
メッセージ まだまだ作付面積小さいですが、小さい面積でも作付出来るちょっと変わった野菜を作っています。	
生産地 春野町	

[illegible]

栽培計画

生産者 高知オーガニック（品目②）

[illegible]

[illegible]

●ポータルサイト「有機農業をはじめよう!」 <http://yuki-hajimeru.net/>

全国各地で開催するセミナーや研究会、実践講座の案内や有機農業の研修受入先・相談窓口・経営指標の情報などを掲載しています。



研修先
講習会
相談窓口
経営指標
の情報などを掲載!

有機農業参入促進協議会

- ・技術情報の共有
- ・研修受け入れ先情報
- ・相談窓口情報
- ・事例集
- ・経営指標

私の役目

新規就農事例としての声を各会議で発言・共有し次世代への橋渡し役として活動。代表として会をより社会に必要とされる存在にする。

公開セミナーの開催



実践講座の開催

有機農業をはじめよう！



有機栽培の研修ができる農家や施設を地域別に紹介します。



有機農業で栽培している様々な作物の経営指標を紹介します。



有機農業について対応が可能な窓口を紹介します。



有機農業の実際について、現場の声を通してお届けします。

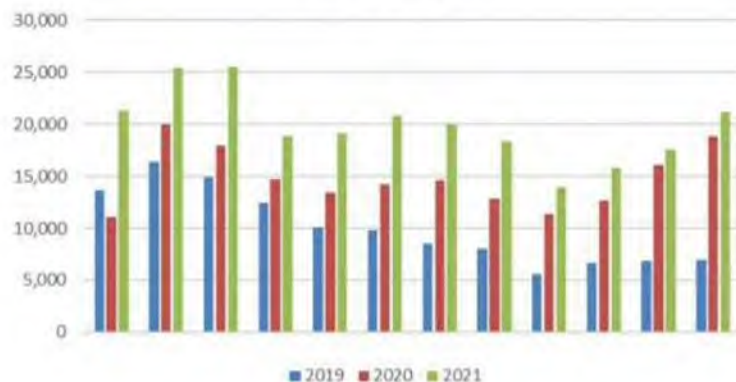


有機農業の理解を深める様々な読み物を掲載しています。

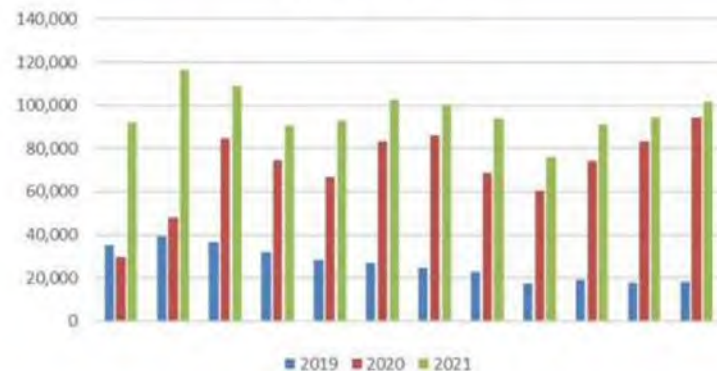


有機農家が直接販売している/できる市場のご紹介です。

ユーザー数



ページビュー数



有機農業セミナーなどの開催

2022年

- 2/10,17,24 『有機農業口座～堆肥づくり・土づくり』
- 3/18 『美しくおいしい有機野菜を生産・販売するために』
- 4/16 会員との意見交換会
- 5/11,18 『基礎から学ぶ有機農業』
- 6/30 『緑肥作物を利用した土づくりを考える』
- 7/14 有機栽培現地ツアー（長野県佐久市・川上村）
- 10/19 『有機農業研究者会議 2022』
- 10/29 『株式会社いかす有機栽培圃場現地見学会』
- 11/29 『有機育苗を考える』

2023年

- 2/25,26 『有機農業講座～堆肥づくり・土づくり』
- 3/7 『有機農業に転換するには何が必要か？』

有機農業セミナーなどの開催

➤ 第27回公開セミナー

「有機農業に転換するには何が必要か？」

3月7日(火)にオンラインで開催。
基調講演に有機農業学会長の谷口氏を
迎え、事例発表には有限会社大塚
ファームの大塚氏に有機農業の転換の
メリットと課題をお話しいただく。



➤ 有機農業研究者会議2022

10月19日、農研機構中日本農業研究センター会議室&オンラインにて、農研機構、日本有機農業学会と共同開催。

第1部では有機農業技術の横展開と販路の拡大への課題について、第2部では実践技術および最新技術を活用した雑草防除へのアプローチを紹介。

これから有機農業をはじめようとする方々に、技術面での支援を心がけています。

オンライン新規就農者向け相談会

有機農業での新規就農を検討している方々に
有参協の新規就農した理事が、経験と知恵を結集して相談
に応じています。

有機圃場の現地見学会

有機農業での新規就農、転換参入を検討している方々に
栽培圃場を見ていただき、生産者、参加者間の交流を通し
て、実施への課題解決に繋げていただきます。

これから有機農業をはじめようとする方々の参入障壁である生産の現場を
明らかにし、実施へのきっかけづくりに心がけています。

全国的な有機農業推進の課題

- ・ 有機農業の価値の理解
- ・ 様々な農法の整理
- ・ 有機農家が必要としている研究
- ・ 地域性を生かした技術の体系化
(官民連携での土づくり・栽培技術支援)
- ・ 教育との連携
- ・ 経営指標データの拡充
- ・ 地域有機物の資源循環
- ・ 堆肥の質の向上 (畜産農家との連携)

世の中が急激に変わってきている実感

国の施策や取り巻く環境

就農時（2010年）

- ・有機農業の推進法が出来た

現在（2023年）

- ・みどりの食料システム戦略
- ・人・農地プラン（新規就農者の受け入れ態勢強化）
- ・次世代投資資金（研修→就農）
- ・環境保全型直接支払い
- ・有機JAS取得支援
- ・有機農業転換 2万円／10a

マーケット

就農時（２０１０年）

- ・ 自然食品店
- ・ 地道な発信・販促による提携
野菜セット販売

現在（２０２３年）

- ・ 一般量販店での有機コーナー
- ・ ビオセボン２８店舗（イオン出資）
- ・ ECサイトを介したBtoCマーケット（ポケマル・食べチョク等）
- ・ 地産地消オーガニックコーナー
- ・ 大田市場にオーガニックを扱う卸業者（(株)大治）
- ・ コロナ過で生協大盛況

食への意識変容

就農時（2010年）

- ・ 環境と健康被害による運動
- ・ 様々な知見によるネガティブキャンペーン

現在（2023年）

- ・ グリーン購入法の特定調達物品にオーガニックが入る
- ・ 環境省よりSDGs推進のアグリビジネスがオーガニック
- ・ オーガニック学校給食導入急増
- ・ 未病の観点から一般家庭にオーガニック選択
- ・ エシカル消費やサステナブル消費の増大

まとめ

私が有機農業を始めたころに比べると取り組む人、周辺環境、行政支援は雲泥の差というくらい変わっている。本当に必要なのは国民全体でみどりの食料システム戦略等にあるような食と農と環境の関係性に関心を持つこと。そして何を目的に何を描いている目標なのかを理解し、納得して行動できる環境づくりではないかと思う。有機農業を推進することが使命でも目的でも無い。ましてや農法での分断などありえない。日本という国が農業という生命産業をどう捉え、どのように活用して永続していけるかの瀬戸際なのではないか。若い世代、これから生まれてくる子供たちにどのようなバトンを渡せるかを国民すべてがステークホルダーとして活動していきたい。皆さんも出来ることから一緒に行動していきましょう！